

平成28年度第2回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成29年3月29日（木） 14時～15時30分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員長 笹倉 剛 委員 枝元 益祐 委員 北里佐和子 委員 熊本 潤子 委員 布谷 忠司 委員 松本 淳子 委員 松本 素子 委員 水谷 孝子  事務局 川原社会教育部長，丸尾館長，石本館長補佐 越智整理係主席係長，末広奉仕係主席係長，森位
欠席者	なし
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- ① 平成29年度予算について
- ② 図書館利用実態調査の結果について
- ③ その他

2 提出資料

- ① 平成29年度 予算関係資料
- ② 図書館利用実態調査結果資料

（協議会開会）

（笹倉委員長）ただ今から，平成28年度第2回図書館協議会を開会します。

最初に，本日の委員の出席状況について報告をお願いします。

（丸尾館長）委員定数8名中7名の委員が出席されておられます。水谷委員より少々遅れるとの連絡を頂戴しております。芦屋市図書館設置条例施行規

則第33条の2の規定で、過半数以上の出席で会議は成立しております。  
(笹倉委員長) 次に、「芦屋市情報公開条例第19条」に基づき、この会議は原則公開としますが、特にご意見がなければ公開とさせていただくことにご異議ございませんか。異議がないようですので、この会議は公開とします。続きまして、芦屋市情報公開条例第7条に公文書の公開義務の規定で、本日の委員会の内容は原則公開と考えております。なお、公開内容としましては、ご発言いただいた委員のお名前も含め芦屋市ホームページで公開いたします。

本日は、協議会の傍聴をされる方はおられますか。

(丸尾館長) 今のところございませんが、傍聴の方がお見えになりましたら、諮らせていただくこととなりますので、よろしくをお願いします。

(笹倉委員長) では、平成29年度予算について議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(丸尾館長) (事務局より、平成29年度予算について報告)

平成29年度予算の説明は以上です。

(笹倉委員長) ありがとうございます。ただ今の説明につきまして質問やご意見はございませんか。

(布谷委員) 参考図書のところの照明の照度が気になっておりますが大丈夫ですか。

(丸尾館長) 暗さ、ということですね。夕方くらいになると照明をつけるのですが、それまで薄暗いという印象があるのと、天井が低くなっている部分もかなり影響しているように思います。

(布谷委員) 暗いところで利用者さんが本を読んでおられるなという気がしていたのですが。

(丸尾館長) キャレル席には電灯がついているので大丈夫だと思いますが、参考調査室で資料を立て掛け、立った状態で読んでおられる場合は、確かに少し暗いと思いますので、大規模改修の時にLED化を含め照明も整備していきたいと考えております。

(笹倉委員長) 他に何かございませんでしょうか。

(枝元委員) 貴重本とか田尾コレクションとか定期的な補修の経費などは予算に挙がっているのでしょうか。

(丸尾館長) 今のところそういったコレクションの修繕費用等は特に予算として計上しておりませんが、修繕箇所が見つかった時には随時対応しております。昔は脱酸処理というものを行っておりました。各コレクションは、戦前の資料も多く、傷んできていますので、今後こういった形で残していくのか、課題であると思っております。

(笹倉委員長) 今後、大規模改修工事があって半年間休館するという事なんですけど、予算に絡めて説明願えますか。

(丸尾館長) 来年度は設計委託ということで、改修工事自体は平成30年度実施予定です。工事内容等はまだ固まっていないのですが、工事期間中についてもなるべく利用者の方には迷惑がかからないように、分室や他の施設と協議しながら考えていきたいと思っております。

(布谷委員) コンピュータシステムにかかる予算は大規模改修工事と関係した予算なのでしょうか

(丸尾館長) これは、たまたまコンピュータシステムの更新時期が平成29年度になったということです。

(笹倉委員長) 次の議題に行かせていただいてよろしいでしょうか。そうしましたら、図書館利用実態調査の結果について、事務局から説明願います。

(丸尾館長) 図書館の利用実態調査の結果についてですが、前回の協議会のなかで笹倉委員長から利用者アンケートについてご質問いただいた際、実施予定であると回答させていただいておりました。その図書館利用実態調査についてご報告させていただきます。

(事務局より図書館利用実態調査について報告)

利用実態調査については以上です。

(笹倉委員長) ただいまの報告に関して、何かご意見等ございますでしょうか。

(枝元委員) 問1ですが、国道43号線以南というロケーションにこだわるのは何か背景があるのでしょうか。

(丸尾館長) 利用にあたっては、近い場所にある図書館・分室に利用される場合が多いと思うのですが、概ねどんな形で分布しているのかを調べたくて設問に設けております。

(枝元委員) 市の区分けの考え方としてとして国道43号線や山手幹線というのがあるのかなと思ひまして。

(川原部長) 補足いたします。市域で言いますと、一番北は阪急沿線があります。阪急沿線以北は山手で坂道が多く、分室といった図書館施設がない地域となっております。阪急から山手幹線を含めて43号線までを真ん中と考えておりました、比較的平坦な地形となっております、分室もこの辺りにあります。そして43号線以南には本館がありますが、43号線を越えて来館するというのは、本市は縦方向の交通網がバスしかありませんので、そういったところも含めて、市の南の地域に本館がある中で、人の動きがどうなっているのかということでございます。

(枝元委員) なんとなく、そういうことかなと思っておりました。本館に4割の方が来られていると、最大母数の方が来られる本館の今後のサービス等

を充実させていきつつ、北の方もどう充実させていくかという戦略が考えられるかと思いますが、そういったクロス分析をされているのでしょうか。  
(丸尾館長) 今回、クロス集計は行っておりませんが、内部的に調査を進めたと思っています。芦屋市内の図書館整備は、先ほど部長の説明にもありましたとおり、43号線以南の本館と、阪神打出駅の近くにある打出分室、JR芦屋駅の周辺の大原分室、公民館図書室、上宮川文化センター図書室の3ヵ所あり、阪急以北が図書館の施設がないという整備状況です。芦屋は、南北に長く、南のほうも南芦屋浜から本館までくるのは、遠く利用しづらい状況です。

(布谷委員) 問1でお住まいを訊くのならば、本館には駐車場もあるので、なぜ交通手段を訊かなかったのだろうと思いました。来館手段を訊いたら、例えば結果「駐車スペースがもう少し必要かな」ということも判ると思います。

(丸尾館長) 今後、調査を行うときの参考にさせていただきます。

(布谷委員) インターネット回答が思ったより少なかったと思うのですが、インターネット回答画面の最初に兵庫県のアンケート回答システムの画面に行くんですね。芦屋市と関係のないページに来たと勘違いしますので、「インターネットの回答は県の回答システムのホームページに移動します。」と一言書いてあったら、そういうことは回避できたと思います。

(丸尾館長) 表示の説明不足で、途中で不安になってインターネット回答を辞めた方がおられるのではないかとということです。

(布谷委員) 「インターネット回答は県のシステムを経由しますが、全く問題はありませぬ」という説明があれば、もう少し回答数が伸びたのではないかと。

(笹倉委員長) 今の質問も含めまして、何かありますか。

(布谷委員) JR芦屋駅前にも返却ポストができて大変よかったと思うのですが、なぜ返却ポストをアンケートの回収に使わなかったのでしょうか。

(北里委員) 前回の協議会でアンケートを実施されると聞いていましたので、私はアンケートの事を知っていましたが、一般の市民の方はほとんど知らなかったと思います。返却ポストをアンケート調査に活用されたらよかったと思います。

(笹倉委員長) 周知はされていたのです。

(丸尾館長) はい。広報紙と市のホームページと図書館のホームページと、チラシやポスター等で実施前から周知はさせていただいておりました。この協議会でも返却ポストを広報に利用したらどうかというご意見を頂戴していたのですが、活かせていなかったこともございましたので、今後考えて

いきたいと思っております。

(笹倉委員長) 集計はかなり時間がかかったのではないのでしょうか。

(丸尾館長) 職員で手分けをして集計作業にあたりました。複数回答の項目もありましたので、大変でした。回答件数が増えた場合の集計方法等も課題があると思います。

(熊本委員) 利用実態調査とは別の調査になると思いますが、利用しない人の実際調査もあればよいと思います。

(笹倉委員長) 何かご意見がありましたら、事務局お願いします。

(丸尾館長) 図書館で日々サービスを提供していて、「今これが求められているのではないか」と想定していたことと、集計結果とでは少し意外に感じる部分もありましたので、こうした調査は毎年ではなくても定期的に実施して、何が求められているのかを調査することは大切だなと強く感じました。

(枝元委員) 私の研究分野は教育学なのですが、調査を行う場合、今回のような量的調査に加え、仕組みとして「今後問い合わせやインタビューがありましたらご協力いただけますか」という項目を設け、更に質的調査を行うことがあります。量的調査の後に質的調査を行うと、質問項目に対し「何でそんなことを言わないといけないのか」と思うことでも、抵抗なく答えていただけますし、図書館に対する要望なんかも忌憚なく、良い意見も悪い意見も出てくると思います。1回のアンケートで、何もかもやろうとすると項目数が増えてしまって、答える側も抵抗が出てきて、回答数が落ちてきますので、二段構えでいくのもひとつの手だと思います。

(布谷委員) メールアドレスがわかっている利用者の方に、お金のかからない形で、匿名性がなくても協力していただける方にアンケートを行う等、ネットの力を利用するという方法も検討してはどうでしょうか。例えば、大規模改修を行うにあたっての要望など、今回の設計に生かすこともいいのではないかと思います。

(水谷委員) 子どもたちにとっての図書館というのをもっと知りたかったです。学校図書館と連携するなどの形で行うのは難しいのでしょうか。

(丸尾館長) 子どもニーズについては、学校の協力を得るなど別枠で考えることも事も可能であると思います。

(松本淳子委員) 学校の図書館を利用している子どももいますし、中には西宮市の図書館を利用している子もいます。子どもたちの本離れに対し、教育委員会でもブックワームの取り組みをしており、学校だけでなく、こういった施設を使って「図書館を知る」ということをやっていくのもよいと思います。

(水谷委員) 図書館事業をなさっている中で、子どもたちの図書館への評価というものを私は知りたと思いました。

(笹倉委員長) 他に何かございますか。

(水谷委員) 小学生くらいになると、自分が好きな本があります。好きな本の「こういう所が面白かった」と子どもが表現できる場があってもよいのでは。それに対して司書は専門家ですから、子どもたちのそういった気持ちを更に広げることができるのではないのでしょうか。そういった体験は図書館でもできるのかなと思います。

(枝元委員) 小学校などでは、子どもに本の帯を書かせるということをやっているところがあります。沖縄のほうで実際に見たのですが、中学校で「サッカー部の先輩オススメの本」という紹介すると、他のクラブの部員が対抗意識で、もっとよい本を薦めようとする。先生を巻き込むのがポイントなのですが、自分のやったことが独りよがりではなく、人に認められることで喜びと共に増えていく。これを図書館でやるとすれば、例えば、選ばれた本の読み聞かせをすると、その本を選んだ子どもが来ますよね。こういった仕掛けをすることも連携のひとつだと思います。例えば名古屋市では、「としょかん再発見」というNPO団体が感想文のコンクールを図書館ベースで教育委員会とタイアップして行っています。

(松本委員) 芦屋市内の小中学校でも、ブックトークといいますか、子どもたちが本の紹介を行う時間を取っております。また、学校ごと学年ごとに、それぞれ読書感想文集を作っております。そういった感想文の発表の機会を図書館でつくるのも可能かなと思います。ビブリオバトルなど、小学校・中学校でできるのではと思うのですが。

(枝元委員) ちょっと話がそれるかもしれませんが、本の紹介やお話は良いと思いますが、ビブリオバトルについては、個人的には要注意だと考えています。ビブリオバトルは、純粋な評価ではなく、勢いであるとか主張が評価されることもありますし、他の自治体では、政治的な意図を持って表彰するということが問題になったことがありました。イベントとして行うのはいいですが、読書と結びつける場合、注意が必要であると思います。あと、プレゼンテーション能力だけに特化すると読書とはかけ離れるのかなと。ビブリオバトルが小手先技術や話術で広まっていくことが、少し心配です。

(笹倉委員長) 芦屋市立図書館は昔から児童分野に力を入れていて、児童の利用はトップクラスではないかと私は思っているのですが、それに甘んじることなく、学校との連携等されておられます。しかし、利用実態調査の問3-2では10歳代が1%、もっと心配なのはヤングアダルトの中高生、

20歳代です。関連があるのか判らないかもしれませんが、最後の問14の内容で図書館施設を利用しない理由に挙げられている回答、「読みたい本がないから」等の関連について、もう少し説明をお願いします。

(丸尾館長) 10年前の調査結果と比較しますと、10年前一番利用が多かったのは30歳代でした。そこから利用者の高齢化がかなり進んでいることがわかりました。そのことは、例えば、大人向けの教養イベントの要望など、回答にも反映されています。児童サービスについては、行事等ここ2年間で増やすなど取り組みを進めていますので、あとは、高齢者に向けての行事や施設整備を優先的に考えていきたいと思います。委員長からもお話がありましたように、児童サービスについては、これで良しでなく、今の質を維持しながら、取り組みを強化し、見直しや拡充を考えていきたいと思っております。

(枝元委員) ブックスタートは、どのようにされていますか。

(丸尾館長) ブックスタート事業について中心となって行っているのは健康課ですが、保健センターで行う4ヶ月検診のときに図書館の職員とボランティアの方が出向いて、親子向けにマンツーマンで読み聞かせを行っております。平成22年度から、関係部署と連携しながら行っております。

(枝元委員) 図書館として、育児全体の中でのターゲットなどはあるのでしょうか。例えば、大阪の吹田市では母子手帳にブックスタートの項目が入っています。生まれる前からターゲットにされているのです。お母さんの最大の関心事は出産であり、子どもが生まれると最大の関心ごとは育児になります。その出産・育児に図書館がどのように関わっていくのか。生活全体の話にスライドしてきていることを考えて行かれたらどうかと思います。

(笹倉委員長) ブックスタート事業も大変だと思います。生後6ヶ月のときに始める自治体もある中で、神戸市や芦屋市はそれより早く生後4ヶ月から取り組んでおられて、よくやっておられると思います。

(布谷委員) 大原分室が改修されて、床も厚いカーペットになるなど、すごく環境がよくなったと思います。JR芦屋駅北に返却ポストもできて24時間返せるようになった。あの地区がすごくグレードアップされました。打出分室にも返却ポストは設置できないのでしょうか。

(丸尾館長) 返却ポストの整備については、今後のサービスを含めて総合的に、どういう形で対応していくか、考えて行きたいと思っております。

(笹倉委員長) 他にご意見はないでしょうか。

(北里委員) 芦屋市では小学校、中学校でボランティアさんが絵本を読み聞かせをされているのをテレビで観ました。そのとき中学校でも絵本の読み聞かせをされていたので、なかには物足りないと感じている生徒もいるので

はないかと感じました。私もおはなしを語る際、最適の時に最適なものと心がけていますが、本についても同じだと思います。学校司書が図書館に研修に行くとか、図書館と学校がもう1歩踏み込んだ連携ができるのではないのでしょうか。

(枝元委員) 学校図書館法が改正されて、学校司書が法的に整備されつつあります。しかし、実態としては、週に一日二日派遣センターみたいなところから派遣されて「学校司書がいます」「学校図書館を開けてます」というところがほとんどです。採用条件も司書資格も学校司書資格もなくてよい、運転免許があればよいとされ、車で1日に2～3校回るという自治体も非常に多いのです。仮にそういう状況で、連携を密にしようとしたら、現場は悲劇です。現場の状況を見て、連携を進めていかれたらいいと思います。

(北里委員) 図書館の行事案内を全学校配布するとか、「図書館ではこんなことをやっています」ということを学校と連携していければ、子どもたちももっと興味を持つと思います。

(笹倉委員長) 他はいかがでしょうか。

(熊本委員) 中学校で絵本読み聞かせのボランティアをしております。学校側の意向で時間が10分と決められています。10分で完結する本となると、絵本か詩しか読めません。何か良いアドバイスがあれば教えていただきたいと思います。また、図書館と読書感想文等の件ですが、感想文は、技術の問題で、上手な友人もいましたが、私は読書感想文が嫌いでした。感想文を書きなさいとか、みんなで見せ合いましょうとか、この子は感想文が上手となつては、本が好きな子どもは育たないのではないのでしょうか。図書館は「ここには本がありますよ。」と受け入れてくれる場所であればいいと私は思います。

(枝元委員) 同感です。一つの方策としての感想文ですので、おっしゃっていることは、よくわかります。

(笹倉委員長) 他にございますか。なければ、これをもって図書館協議会を閉会させていただきます。皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。どうもお疲れ様でした。

以上